

キーワードは “新しいつながりのカタチ”

愛称

つながりふくしプラン

第2次

地域福祉推進計画

2011年→2015年

宍粟市の5年先は…

少子高齢化や世帯の縮小化が進行する中、現在の私たちの生活を支える地域コミュニティの機能はどうなるのでしょうか。

宍粟市の5年後を展望して策定した「第2次地域福祉推進計画」。

だれもが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、今ある「人與人」「人と地域」のつながりを大切にしながら、住民みんなで支え合える新しい仕組みをつくる必要があります。

今月号では、「つながり」に着目した今回の第2次地域福祉推進計画について、取り組む予定の活動の一部を紹介します。

計画では、地域福祉目標を
「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり」とし、
これを実現するため4つの推進目標を設定しました。
これらの目標を達成するため、次のような取り組みを進めます。

推進目標 1

「自治会域での福祉のつながりづくりを進めます」

隣近所での日常的な見守りや助け合い活動は、地域での孤立を防ぎ、だれもが安心して暮らせる地域づくりに欠かせません。このような活動を市内の自治会域で取り組みます。

●小地域福祉活動モデル地区 指定事業の実施

小地域福祉活動のモデル地区事業に取り組む自治会を募集し、福祉連絡会の組織強化や活動の活性化を図ります。

●住民福祉座談会の開催

地域の生活・福祉課題を住民同士で話し合える住民福祉座談会を開催します。

●ご近所ボランティアの推進

向こう三軒両隣の精神を活かし、支援の必要な世帯のゴミだしや買い物援助などご近所同士でできる支え合い活動を進めます。



希望される自治会で住民福祉座談会を行います。
写真は自治会別懇談会で地域の状況について説明を受けるみなさん(出石公民館)

読者の
感想より

表紙に知人や友達の家族がのるのがとてもいいです。みんないい家族ですね。(山崎町 女性)